

SLP+

教師の学習コミュニティをつくる —スクールリーダープロジェクト—

Creating the Professional Learning Community for Teachers
School Leaders Project

2022年10月

関西福祉科学大学 大脇 康弘

教師の学習コミュニティをつくる —スクールリーダープロジェクト—

<内容構成>

1. 学習するスクールリーダー
2. スクールリーダーの学び場をつくる
A. スクールリーダーフォーラム B. 夜間大学院 教職大学院
C. スクールリーダー研究会
3. 実践研究 教師のライフコース
4. 「天・地・人」

<ポイント>

- a. 教師が学び合うコミュニティ
- b. スクールリーダーが主対象
校長・教頭、主幹教諭(首席)、指導主事など
- c. 教師のライフコースを省察

Profile 大脇 康弘

・教育経営学、教師教育学 専攻

<大阪教育大学>

<関西福祉科学大学>

⇒学校づくり・教育改革に参画

大学・学校・教育委員会のコラボレーションを企画

⇒**スクールリーダーの「学びの場」**

- ・「スクールリーダー・フォーラム事業」2012
- ・「夜間大学院のスクールリーダー教育の実践」2017

⇒日本教育経営学会「**実践研究賞**」受賞

1. 学習するスクールリーダー

- ・「学び続ける教師」
- ・教師が学び合うコミュニティ
- ・スクールリーダーに焦点化：
学校づくりの中核を担う教職員
主体性・協働性・創発性を基軸に
- ・中教審答申2015
「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について
～学び合い、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～」
- 「学び続ける教員」「教員を支えるキャリアシステム」
 - ①時代の変化やキャリアに応じて資質能力を高める力
 - ②アクティブ・ラーニングをふまえた教育課題への対応力
 - ③「チーム学校」の一員として連携・協働する力

＊時代変化への対応＝教員育成指標と研修体系の整備

スクールリーダー教育の起点 —学校改革に参画する—



学校改革の同行者 2002年



コラボの企画者 2003年

2. スクールリーダーの学び場をつくる —スクールリーダープロジェクト—

- A. スクールリーダーフォーラム
 - B. 夜間大学院・教職大学院
 - C. スクールリーダー研究会
- ＊フォーラム—大学院ブリッジ方式

1. 「学び場」をつくる基軸に、①出会う・交わる・協働する、②目標共有・実践交流・省察と創発、③理論知と実践知の対話
＊参画論、組織論、認識論
2. 大阪教育大学を拠点に大阪府教育委員会、大阪市教育委員会とのコラボレーション、福井大学教職大学院、鳴門教育大学教職大学院との連携協力に取り組む。
3. プロジェクトの**組織性・持続性・発展性**。
2001年度～2020年度

A. スクールリーダーフォーラム ー学校づくり実践を交流し省察するー



第13回フォーラム・ラウンドテーブルの取組み



大学・学校・教育委員会のコレボレーション

フォーラム・ラウンドテーブル
2015年

7

A. スクールリーダーフォーラム

① スクールリーダーの学び場

実践交流、理論と実践の対話を組織する。

- ・学校づくりの中核を担う教職員
+行政職員+大学研究者 100人規模

② 大学と教育委員会の合同プロジェクト

- ・大阪教育大学と大阪府・大阪府教育委員会：企画会議（月1回）
+教職大学院の連携協力：福井大学、鳴門教育大学

③ 組織性・持続性・発展性

2002年度～2017年度

- ・創発的取り組み：＜基調講演+ラウンドテーブル+総括講演＞
分科会、連続セミナー、ケースメソッド、ピアノとチェロの共演
実践報告者：30名程度

④ フォーラム報告書17冊、冊子7種

8

B. スクールリーダーが学ぶ大学院 夜間大学院・教職大学院

スクールリーダーコース・学校マネジメントコース

(1) 現職スクールリーダーが学ぶ

- ・実践を支える理論を求めて
- ・学校づくり実践を対象化するために
修了生 40名+α

(2) 「働きながら学ぶ」両義性

- ・昼は教師、夜は大学院生
- ・大学院での学習は刺激的
- ・修士論文、実践課題研究論文は挑戦的

(3) 理論知の獲得と実践の対象化

「実践研究に取り組む」スクールリーダー

⇒ C. スクールリーダー研究会での継続

9

3-(1) スクールリーダーの実践研究 ー学校づくりを省察するー



『スクールリーダーフォーラム報告書』
2002-2017年度 17冊



『スクールリーダー研究』
2008-2020年度 13冊

10

3-(2) 理論知・実践知対話の図式化 実践研究はスパイラル的深化

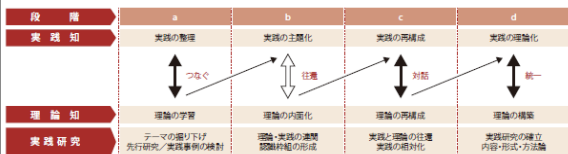


図2 理論知・実践知の循環（螺旋図）

理論知と実践知の連関：つなぐ、往還、対話、統一（対話と総称）
⇒実践研究を拓く

11

3-(3) スクールリーダーの学び場 ー学校づくりを省察するー



『つくる 教師の学習コミュニティ』
フォーラム総合版 2016年



『ひらく 教師の学習コミュニティ』
スクールリーダー総合版 2017年

4. 実践研究「教師のライフコース」を拓く



関西福祉科学大学のゼミ・研究室をチェック
<http://shingaku.mysevi.jp/gakkou/167item/>

教師の「教育実践の軌跡と生き方」を省察する

教師の仕事と生き方をロングランで把握するために「実践研究：教師のライフコース」という研究分野を開拓してきました。教師のライフコース研究は、教師の生き方の軌跡を辿り、入職・成長・転機・退職の過程、教育実践スタイルと信念の形成について明らかにしてきました。

教師生活は40年弱に及びますが、スクールリーダーでは若年期、中堅期、教頭期、校長期の四期に分けられます。私たちは、各時期の教育実践を「境り」として取り出し「リアルに具体的に記述する」こと、そのためには教育実践を「コンセプトとストーリー」を持つ物語として再構成することが必要不可欠であると考えています。

これまでは研究者による教師のライフコース研究（ライフヒストリー研究、ライフストーリー研究）の流れ、教師による教育実践記録という二つの流れがあります。私たちは第三の道として、教師が自らのライフコースを省察し物語として書き出す「実践研究」に取り組んできました。私は教師教育研究者としてこの実践研究の目的・方法・課題について認識枠組を構築し、教師の実践研究の「同行者」として関わります。その意味で「協働実践研究」に取り組んでいるのです。

この「実践研究：教師のライフコース」は当事者にとって教師の仕事と生き方を再定義することになります。社会的には、スクールリーダーの経験と成長の実像を教育実践を通して深掘りできます。そして、コーホート（同年齢集団）としてのライフコース研究は、スクールリーダーの成長と育成への羅針盤を描くことにつながります。

4. 実践研究 教師のライフコース

教育実践の山脈(やまなみ)を描く

a. 教育実践(学校づくり実践を含む)を「リアルに具体的に」記述

教師がライフコースを振り返るために、教育実践を「省察・探究・再構成」していくことを基軸に据える。教師の教育実践の特徴と浮き彫りになり、教職アイデンティティの断面が開示される。

b. 時期区分は①若年期、②中堅期③教頭期（指導主事期）④校長期の四期

c. 各回1テーマとし、「実践事例1つ」を選んで、内容構成する。
コンセプトとストーリーd. 以上を受けて、四つの時期を「つなぐ」
(重複をなくす。誤読されないよう補足する等)

e. 最初に、教師としてのキャリアを簡潔に記述する。

⇒教師が教育実践の物語を「紡ぐ」方法を深めることが課題。¹⁴

4. 実践研究 教師のライフコース

教育実践の山脈(やまなみ)を描くー読む

事例から読み解くと、

- ・若手期、がむしゃら、無我夢中＝教師の基盤形成
- ・中堅期、テーマ、出会い、機会

- ・教頭期、何でも屋、柔軟さ
- ・校長期、ディレクター、組織づくり

未来を見通すことは難しい、実践の中で自己の課題を見出す、
意味ある他者と出会い、連携協力して実践を作り出す、
その道筋を省察し再構成することは意義がある。

15

5. 天・地・人

教師の学び場をつくるスクールリーダープロジェクト

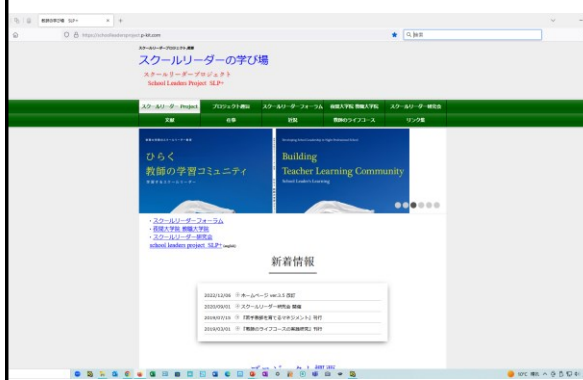
- ・結果としてライフワークとなる、20年間
- ・組織性、持続性、発展性

「天・地・人」三要素をつなぐ試み

- ・スクールリーダー育成、大学と教育委員会の連携協力ー天の時
- ・天王寺キャンパス：南の拠点、夜間大学院：現職教員が学ぶー地の利
- ・スタッフ：中核、協力者、支援者ー人の和

「天の時は地の利に如かず、地の利は人の和に如かず」(孟子)

16

スクールリーダープロジェクトのHP 紹介
<https://schoolleadersproject.p-kit.com/>実践研究 教師のライフコース
ー教育実践の山脈を描くー

2022

関西福祉科学大学 大脇康弘

18

スクールリーダーの実践研究 —学校づくりを省察する—

スクールリーダーの「学び場」を創ることを理念に掲げて、A.スクールリーダーフォーラム、B.夜間大学院 教職大学院、C.スクールリーダー研究会、D.出版活動を行う。2001年度～2020年度に事業を実施する。

「学び場」を創る基軸に、①出会う・交わる・協働する②目標共有・実践交流・省察と創発③理論知と実践知の対話をすえて持続的に取り組む。大阪教育大学を拠点に、大阪府教育委員会・大阪市教育委員会とのコラボレーション、福井大学教職大学院、鳴門教育大学教職大学院との連携協力で取り組む。

出版刊物物として『スクールリーダーフォーラム報告書・冊子』『学校教育論集』『スクールリーダー研究』（以上、各年度版）、関連書籍として『ひらく 教師の学習コミュニティ学習するスクールリーダー』『つくる 教師の学習コミュニティ大学・学校・教育委員会のコラボレーション』『若手教師を育てるマネジメント』（ぎょうせい）がある。

この事業は日本教育経営学会「実践研究賞」(2回)を受賞した。受賞題目は「スクールリーダーフォーラム事業の持続的実践」(2012)「夜間大学院のスクールリーダー教育の実践」(2017)である。

実践研究：教師のライフコース —教育実践の山脈を描く—

教師の仕事と生き方をロングスパンで把握するために「実践研究：教師のライフコース」という研究を開拓してきました。教師のライフコース研究は、教師の生き方の軌跡を辿り、**入職・成長・転機・退職の過程、教育実践スタイルと信念の形成**について明らかにしてきました。

教師生活は40年弱に及びますが、スクールリーダーは**若年期、中堅期、教頭期、校長期**の四期に分けられます。私たちは、各時期の**教育実践**を「塊り」として取り出し、「**リアルに具体的に記述する**」こと、そのためには教育実践を「**コンセプトとストーリー**」を持つ物語として再構成することが必要不可欠であると認識しました。

これに関係する取り組みは、教師のライフコース研究など、教師の教育実践記録など二つの流れがあります。私たちは、教育実践の当事者である教師が自らのライフコースを省察し物語として描き出す第三の道を選んで取り組んでいます。

多くの先生が、教育実践の記録・資料・ノート、論稿などを保存しており、それらを読み直しながら、四期の教育実践の「塊り」とその物語りを編み直す作業に取り組めます。私は教師教育研究者としてこの実践研究の目的・方法・課題について話し相手になり「同行者」として関わります。その意味で「**協働実践研究**」に取り組んでいるのです。